

# 阿南市立山口小学校 「学力向上実行プラン」

## 研究テーマ

思考力、表現力の向上を目指した語彙力・文章構成力の育成  
～「話す」「聞く」「読む」「書く」活動の一層の充実を通して～

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員  
委員 校長： 教頭：  
教務主任：  
特別支援教育コーディネーター：  
人権教育主事：

### (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた学習課題には真面目に取り組むことができ、漢字の読み書きや基本的な計算のスキルについては70～80%の定着が見られる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。 ②与えられた時間内に必要な事柄を速く正確に書き留めることができる。	①単元末テストにおける基礎的・基本的事項の正答率を80%以上にする。 ②与えられた時間内にノート等への視写が正しくできる児童を80%以上にする。		①小スキルテスト等を定期的実施した(学年によって毎日～週1回)。 ②定期的に視写学習を行ったが、学年によって週1回できない場合もあった。ノート指導については共通理解が不十分な点があった。	①個人差があるが、ほぼ達成している。 ②書く量を少なくしたり、小分けにするとできる。個人差があり、時間内に書くことが難しい児童もいる。
課題 主述の関係、修飾語、対義語等、国語の言語事項に関する知識があまり身につけていない。問題文や資料をいねいに読む力が弱く、長文になると内容を正しく読み取れない児童がいる。鉛筆の持ち方に癖のある児童が多く、板書の視写等に時間がかかる。	具体的方策(教員の取組) ①朝活や授業中等に5問程度の国語や算数のスキルテストを行い、基礎的・基本的な事項の定着の確認をする。 ②字を書く時の基本姿勢を徹底するとともに、視写とノート指導に学校全体で取り組む。	取組指標 ①1週間に1回は確認のスキルテストを行う。 ②ノート指導について共通理解する。週に1回は視写のスキル学習をする。(朝活、家庭学習等)		評価 B	次年度における改善事項 ・主に低学年において集中力に課題のある児童が多く、聞く力も弱いので、視写を継続するとともに、聴写も取り入れる。 ・すべての教科におけるノート指導の共通理解は難しいので、例えば算数など教科を絞って実施する。 ・聞く力の向上を図るために、教師の側も伝え方を工夫するなどの改善が必要。

### (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 書いたり話したりして自分の思いを表現することに前向きな姿勢が見られる児童が多い。場に応じた態度での話し方や聞き方のできる児童が多い。	①相手意識をもち、話型やキーワードを参考に、質問に対する答えや自分の伝えたいことを的確に話せることができる。 ②相手意識をもち、与えられた条件やテーマに合わせて、筋の通ったまとまりのある文章を書くことができる。	①相手意識をもって伝えたいことを的確に話せる児童の割合を80%以上にする。 ②日記や作文が読み手にとって筋の通ったまとまりのある文章になっている児童の割合を80%以上にする。		①日常的な働きかけはできなかったが、必要に応じて授業中などに話型やモデルを活用して話したり、スピーチに対する質問や感想を言ったりするなどの活動に取り組ませた。 ②学年によって差があったが、日記等でテーマに沿った文章を書いたり、相手を決めて手紙を書いたりすることはできた。	①下学年については人の話を最後までに聞かずに出し抜けにしゃべったり、自分の言いたいことだけを言おうとする児童もいて、達成目標には届いていない。上学年はほぼ達成した。 ②書く量は増え、内容も良くなったが、主述のねじれや誤字などが多く、かなり添削が必要。手紙のようなものは比較的丁寧に書ける。
課題 問題文や資料の情報を正しく読みとる力、場面をイメージする力、グラフや図を活用して思考する力が不足している。文章構成力が弱く、与えられた条件に合わせて文章を構成したり、質問に適切に答えたりする力が不足している。	具体的方策(教員の取組) ①相手意識をもたせた「聞く・話す」場面を授業に設け丁寧に指導し、また日常生活における場面でも語順や構成の整った話し方ができるように指導する。 ②日記指導、作文指導を徹底し、主語述語の関係、修飾被修飾の関係等が整った、読み手によく分かる文章を書かせる。	取組指標 ①相手を意識させ、条件を与えたり、答えを繰り返させたり、自分の言葉で言い換えさせたりする動きかけを日常的に行う。 ②テーマを与えて読み手を意識した文章を書かせる機会を一週間に1回もつ。		評価 B	次年度における改善事項 ・定期的な「書く」活動が必要。モデルを真似たり、テーマに沿って書いたりするなど、日記や作文単元での丁寧な指導を継続する。 ・相手意識を持たせるために、手紙を書く機会を増やす。「推敲」の学習を特別に取り出して行い、習慣づけをする。 ・イメージする力を育てるため、具体物を使った操作活動や体験活動を取り入れる。 ・表現語彙(使用語彙)と理解語彙ともに力が不足しているため、国語辞典の活用や言葉集めなど簡単にできることから取り組む。

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学校での勉強が楽しいと答えている児童が80%以上いる。自分の知りたいことや分からないことをすすんで調べることができる児童が増えた。本や新聞などにすすんで親しんでいる児童が多い。	①読書の習慣を身につけ、文字や言葉、文章に広く親しむことができる。 ②家庭学習の習慣を身につけ、決められた時間工夫して家庭学習をすることができる。	①「1週間に本を1冊も読まない」児童を0にする。 ②家庭学習の時間のめやすとルールが守れている児童を70%以上にする。		①毎日の読書タイムは確実に実施できた。それに加えて、隙間時間や雨の日の休み時間の読書なども積極的に推進した。 ②家庭学習振り返りカードで年3回は確実に状況を確認できた。日記などにはげましのコメントを残した学年もあったが、確実に実施できていない学年もあった。	①すべての児童が一週間に1冊以上は読書をしている。 ②下学年についてはほぼ守れているが、上学年については、めやすとルールが習慣づいていない児童が少数ではあるが見られた。
課題 読書の習慣に個人差があり、それが語彙力、ひいては学力に影響している傾向がある。家庭学習の時間のめやす、家庭で決めた学習のルールが確実に守れている児童が少ない。	具体的方策(教員の取組) ①授業内容と関連する本などを意図的に学級文庫に置くなど、教科指導と読書との関連を図り、環境を整える。 ②学年通信等を通じて、家庭学習の習慣づけについて保護者にも協力を求めるとともに、自主学習ノートの紹介をするなど児童への働きかけを定期的に行う。	取組指標 ①読書タイムを確実に実施する。1日平均15分の読書を推奨する働きかけを工夫する。 ②月末には必ず家庭学習の状況を口頭で児童に確認し、励ましの言葉がけをする。		評価 B	次年度における改善事項 ・真面目に取り組むが、学習に主体性がほしい。「分かる」「できた」「ほめられた」という経験の積み重ねが必要。教師の励ましだけでなく、保護者からの賞賛があるとよい。 ・保護者の意識改革。結果ではなく過程を認め、賞賛し、励ますことの大切さとその効果について知ってもらうための取り組みを工夫する。 ・教職員も、子どもを勇気づけ励ます方法について校内研修などで研修を深める。

## 平成31年度 学力向上ロードマップ

